

## 平成 26 年度第 1 回 角館地域審議会議事録

日 時 平成 26 年 7 月 3 日 (木) 13 時 30 分～15 時 30 分  
場 所 仙北市役所角館西庁舎 2 階 第 4 会議室  
出席委員 柴田政幸会長、吉田慎一副会長、相馬博之委員、茂木千代太郎委員  
黒澤昇委員、藤原久榮委員、千葉一明委員 (7 名)  
欠席委員 石郷岡勇一委員、宮田憲隆委員、雲雀明德委員、鈴木八寿男委員、  
藤原悟委員、新山睦子委員 (6 名)

### 仙北市関係者

仙北市長 門脇光浩  
副市長 倉橋典夫  
総務部長 藤村好正  
角館地域センター所長 大澤龍太郎  
観光課長 高橋和宏  
商工課長 黒澤久美子  
総合産業研究所参事 佐藤人志

### 事 務 局

企画政策課長 平岡有介  
企画政策課参事 戸澤浩  
企画政策課主査 藤原正輝  
企画政策課主任 柏谷有紀

- 会議次第
1. 開会
  2. 会長あいさつ
  3. 市長あいさつ
  4. 議事  
    案件 1) 所得 10 % 向上の具体策について  
    案件 2) 人口減少対策について
  5. 閉会

### 内 容

#### ・会長あいさつ

暑い中集まっていただきました。今回は 3 回目になりますが、10 月には提言になると  
思われます。前回も言ったように、色んな意見等をお話していただきたいと思います。  
よろしくをお願いします。

・市長あいさつ

大変お暑い中、皆様からご意見を頂戴する機会をいただきましてありがとうございます。審議会をご存知の通り、合併した際の法的な設置となっており、大変重要な役割を担っていると思っております。皆様からたくさんのご提案、ご提言、アドバイスをいただきたいという思いです。よろしくお願ひします。この後に、副市長に就任しました倉橋より、挨拶をする時間をご了承いただければと思います。この場をお借りしまして少しお話をさせていただきたいと思ひます。新聞報道でご承知の事ではありますが、旧角館プラザ跡に町家プロジェクトということで、民間の方々を中心に新たなまちづくりのプロジェクトが動きはじめております。既に更地になっており、この後工事が始まり、来春には新たなエリアを造成したいという思いです。この施設はホテル、銀行、6次化拠点施設、にぎわい交流の広場がある複合施設です。また新たな思いで町が動き始めるという予感を感じております。

またさまざまな事業が動き始めております。昨年からの繰り越し事業となりましたが、JR角館駅東西通路の設計に入っております。また角館駅前の再開発事業が動き始めようとしている状況です。なんと言っても全国で有数の町であり知名度もある角館であります。皆様に経済効果をもたらしながらの活動が出来るように、一生懸命取り組んでいきたいと思ひます。今回も皆様のテーマとしていただいている、所得10%向上対策、そして表裏一体である人口減少対策という事でたくさんのご意見を頂戴したいと思っております。よろしくお願ひ申し上げます。

・副市長あいさつ

7月1日から副市長に就任させていただいております。退職してから1年3ヶ月程ブランクがありますが、これから一生懸命がんばりたいと思ひます。地域審議会については、私が最初の地域審議会を担当していました。2年間でしたが委員の皆様の色んなご意見をいただくことができました。何よりも各地域の方々に知り合えたこと、そして地域の事情について知ることができ、非常に勉強になったという記憶があります。今回も皆様から色んなご意見をお聞かせいただければ幸いです。これからよろしくお願ひ申し上げます。

(関係職員、事務局の紹介)

・議事 案件1) 所得10%向上の具体策について

事務局 柏谷	冒頭事務局からの資料説明。
柴田会長	資料について何か質問はありませんでしょうか。
千葉委員	資料11ページの観光客数について。平成25年度の抱返り紅葉祭の人数が昨年に比べ大幅に減少しています。4万人が急激に減っています。

	原因について検討しましたか。
高橋観光課長	去年は抱返り紅葉祭の期間を延長しているため、ここに書かれている数字が誤りではないかと思います。手持ちの資料では 71,000 人となっております。
柴田会長	訂正をお願いします。他には何かありませんか。
茂木委員	1 ページ目の農業関連について。圃場整備を進めれば担い手が増えるのではないかという部分ですが、今は 1 町歩単位ですが、以前は 3 反歩ほどでした。地域内の圃場整備はどれくらい進んでいるのでしょうか。
平岡企画政策課長	はっきりとはわかりませんが、70 %程度という事は聞いております。
門脇市長	前々回の議会でも同じ質問がありましたが、やはり 7 割程度でした。
柴田会長	資料に関して他に質問はないでしょうか。無いとすれば具体的な意見を伺いたいと思います。これまでの検討内容をまとめたものがあります。これ以外の意見、具体的な案がありましたら発言をお願いします。
吉田副会長	観光関連の曳山会館の建設についてです。小林委員からの提案だったと記憶しています。観光客が武家屋敷でとどまってしまうので、町内に滞留するためにはそういった建物が必要になってくると思います。そういったものを作ると同時に、飲食スペースを併設するという方法もあると思います。つい 2 ～ 3 日前の新聞を見ますと、内陸線の社長が観光のプロである J T B の方がなられたようです。お会いしてみて、滞留する方法、角館単独でなく大曲の池田氏庭園、増田町の蔵と連携について検討してもらいたいです。また角館町内を見ていただいて、内陸線に乗ると。途中でバスが待っていて乗せていくという様なコースもできるのではないのでしょうか。他市町村を巻き込みながら内陸線の活用を検討して行ってほしいです。利益があれば市の負担も軽減されると思います。
柴田会長	箱物を作る時代は終わって、箱物を作った場合はどのように運営していくか、どのように利益を作り、維持していくことを考える時代です。物を作りましたという事だけではどうにもならないので、色んな考え方をする必要があると思います。

吉田副会長	採算性の具体的な話を進め、採算性がとれないから曳山会館はやめるといった理由がはっきりしたら良いと思います。きちっと話合うチャンスではないかなと思います。
千葉委員	吉田委員の意見は良いと思いますが、ボツボツと意見を出し合う進め方で良いのでしょうか。農業関連から順番に進めて、空欄の部分について意見を出していった方がいいのではないのでしょうか。無いとすれば無いで進めていけば良いと思います。
柴田会長	進め方に良い提案をいただきましたので、そのように進めたいと思います。農業関連について意見がありましたらお願いします。
千葉委員	担い手の方々が高齢化となり、平均年齢があがってきていると思います。若い方々にどうやって農業に参加していただくか。法人化、あるいは農業に関係しない会社が、事業を進めていくために農家に入っていやすい土壌作りをするなど。国もそういった意向ですが、それを活かすような助成が必要だと思います。書かれている意見の中には、そういった意味合いも隠れていると思います。
茂木委員	農業関係の担い手育成を進めるということで、国でも盛んに経営拡大、大型農業を進めています。確かに大型農業で農業をもっていくということは良いとは思いますが、大型農業にするために手放した農家はどのように生活していくのでしょうか。例えば西長野の土地改良でも、耕作作物が 100 ヘクタールに少し足りません。しかし組合数は 100 人です。そうすると 1 人あたり平均すると 1 ヘクタールにみたないという事です。それを大型農業でやると、何人かの農家が出てきて他の方々の全部田んぼがなくなります。今も兼業農家で働いている人は、田んぼがあるために兼業農家で働いている人もいます。完全に田んぼを無くしてしまっただけで、兼業の仕事だけで生活していくことになるのであれば、収入が不安定になると思います。その対策をどのように考えて、大型農業を進めているのかが不明なところです。
千葉委員	具体的手法としては、手放した農家の方々に対する経済措置を考えてもらいたいという提言ですよね。
茂木委員	大型農業を進めるためには必要だと思います。逆に言えば、昔からの自分の田んぼを安く手放すのであれば、田んぼを作らなくても自分の土地として残しておくという方が多いと思います。荒らしてもいいか

ら残しておく。そういう意見も相当あります。大型するといっても中々まとまらないかなと。併せて別の対策も考えながら進めていかななくてはならないと思います。

柴田会長 整備を進める際に、各立場を考えながら政策を進めていかなければならないということですね。農業関連について他に無いでしょうか。

千葉委員 生産性について。作物の単価が高ければ、農業者の所得アップにつながるというのはその通りです。ただ単に作物の単価が上がるということではなくて、購買意欲をなくす可能性もあります。やはり付加価値が無いと中々単価が上がらない、売れないと。付加価値はどういったものかという、山形などのお米のネーミング、PRが効く、そういった付加価値が付かないと難しい問題じゃないのかなと思います。

柴田会長 農産物の生産について、付加価値をつける必要があるということでした。

吉田副会長 農産物の生産について質問です。地元の飲食店やホテル等では、どれくらい地元のものを使っているのでしょうか。

柴田会長 給食関係は出てきていますので、それ以外の部分でしょうか。

吉田副会長 給食以外で、地場産の物をどれくらい使っているのでしょうか。もし使っていなかったら、使ってもらおうということを考える必要があると思います。やはり地元で使わないと他に売るといっても大変だと思います。

千葉委員 一時期タイ米等の外国米がでていましたが、結局元に戻りました。安いだけではおいしくないと。吉田副会長が言っているように、地場産業の米は良いと思います。

吉田副会長 商売をやっている方々はどれくらい地場産物を活用しているのでしょうか。

門脇市長 会長。ちょっと宜しいでしょうか。今の話は、よく議会でも議論になる話です。特に昨年の種苗交換会の時には、JA秋田おばこさんが宿泊予定の高原地区等の温泉、ホテル、旅館等にお米の提供を適正価格で行いました。その時は、お米にかぎらず野菜、海産物はこちらではとれないので、カロリーベースでは半分が秋田県内の食材を使うことができたという報告を受けています。ただあくまでカロリーベースで

す。食材の種類等で、例えば流通費が変われば高くなります。ここに無いもの、もしくは価格として太刀打ちが出来ない農産物等があると、収益を上げなければならないという前提がありますので、なかなか仙北市産、秋田県産の食材を買うという事にタッチできなかったという分野が相当数あったという報告もあります。私の認識では半分は活用いただけているものと思っています。よく話があるのは、それを率先していかなくてはいけない第3セクター等の企業については、更に高く仙北市産のシェアを行っていくという注文はしています。

柴田会長

地場産をいかに使うかという計画の工夫が必要ではないかという意見が付加されています。他に農業関連でありますでしょうか。

相馬委員

農業についてあまり詳しくないのでよくわかりませんが、流通の仕方だと思います。地元のレストランやホテルで、農家から直接仕入れる、またはどこかを介して仕入れるという場合で、地元だけを扱っている卸業者はおそらく無いのではないのでしょうか。流通ルートの確立が無ければ、盛り上がってこないのでしょうか。

佐藤総合産業研究所参事

園芸作物関係の流通ルートですが、実際、仙北市は非常に園芸作物の生産が低くなっています。大仙市の太田地区では4億以上の収益を上げている状況です。仙北市は角館・田沢湖・西木を含めて3億程度です。これはJAの販売額です。今現在、農家の方々はJAとの連携の中で園芸作物の流通をしている状況です。米については、1対1の流通もありますが、比重が大きいのはJAとの連携による流通になります。個々に行っているという方もいますが、その方々は直売所での販売が多くなっています。JAの中でも女性部の直売所もあり、出荷に満たないものについては直売所で販売している現状です。

相馬委員

結局はJAに、この野菜の安い物が欲しいとなれば、地場産よりも茨城産や福島産が入ってくるという事になるんですね。

門脇市長

そうでない組織を持っている所もあります。秋田県内では三種町や潟上市に法人で収集し、必要な所に出荷していくという会社があります。そういう所は給食食材の集め方も良く、食材活用率が上がっている要因ではないかという話もあります。委員のご指摘の通り、機能を果たせるような仕組みがある所は、確実に市内消費量が高まっていくととらえることができます。ただ、施設園芸は仙北市が弱い部分でもありまして、特に冬場は全くダメな状況です。季節変動をどうしていくかという事が難しい現状です。

柴田会長 流通ルートの確立は難しいという話がありましたが、方法としては良いと思います。

茂木委員 農産物の生産ということで、2～3年周期で作物を変更したら供給過剰にならず原価割れをしないと。2～3年ごとに別々の物を作っていくこともあるが、特産品を作って1つのものをやるということも良いと思います。商標登録をしている「白神ネギ」。それは2～3年で変更することではなく、ネギを特産品としてやっています。特産品を作るということも1つの提案になると思います。

千葉委員 後からも出てきますが、マイスター制度にも関連すると思います。

茂木委員 ある物を特産品として生産し、他の地域ではその名前の商品名を使わないでくださいとなる。そういった方法が流行ってきていると思います。

千葉委員 頑張って生産したけれども、なかなか売れないで…

茂木委員 そういった事も考えていく必要があると思います。

柴田会長 農家の特産品を作り売り出すための商品登録は簡単に出来るのでしょうか。例えば角館でお菓子やお土産を作って、それを商品登録に出すというのはありますが、農家の場合はどうでしょうか。JAに出すというシステムがあると思います。特産品を作った時に単純に進むのでしょうか。

茂木委員 商店として登録するものとは違ってくると思います。

柴田会長 自分の土地は自分の土地、その土には植えられないと。なので自分の農機具で自分の土地で作ると。水だけは共有しています。今度からの農家はみんなで色々な物を作りながら、団体の中で1つの物を作っていくというシステムを作らなければついていけないのではないのでしょうか。

茂木委員 ある程度グループでやらなければ、各自で2～3年で物を作るのもどうかと思います。ある程度まとまった段階で1つの物を作って、流通機構を確立していくという必要があるのではないのでしょうか。

黒澤委員 佐竹知事が話していましたが、京野菜、鎌倉野菜といった地元で根付いたものを地元で使うと付加価値が付くという話がありました。ただ

農家の方々だけの話ではなくて、地域に根ざした食文化、観光客にも食べてもらうという食堂も含めて、トータルで考える必要があると思います。それは大型化して商業化する農業法人もあれば、1人でも出来る様な角館野菜といったものを専門的に作る人がいてもいいと思います。大型化する中で、あまってくる人がでてきます。そのあまった人の対策にもなるのではないのでしょうか。

柴田会長

農家だけでなく地域でネームバリューを付け、そして付加価値を付けながら専門的に作る農家でも良いし、単なる大型だけでなく工夫も必要ではないかという意見でした。各農家のオンリーワン、特色を活かしながら、地域全体の付加価値がつくような農業や商工、観光を含めたもので進めていく方法が必要ではないかという意見でした。

吉田副会長

地元での活用状況はどうでしょうか。角館に食べたいものは何かと言われた時に、安心して「ここで食べた方が良いよ」という店が、すぐ3～4つ出るかと言われれば出ますか。

黒澤委員

以外に接点がありません。地元農家の方々と地元の食堂の接点がありません。それをまとめてもらったら良いと思います。

吉田副会長

接点になれば、角館町内に出していくという方法で農家の方達にも現金収入が出てくると思います。

相馬委員

そこの流通が難しいとなれば、やはり産直に出してもらってやるしかないでしょう。

千葉委員

角館の46号線沿いになぜ道の駅がないのかと。大仙市では中仙にあります。あれは道の駅ではなくてお米を作ろうとした人が始めた施設だそうです。トイレだけが道の駅になっているそうです。ほとんど地元の方々の野菜が出ています。余談ですが、箱物はダメと言いますが、国や県からの交付金があるとすれば利用する必要もあると思います。

柴田会長

それでは農業関連については終了し、次の観光関連に移りたいと思います。

千葉委員

県で力をいれている祭典に関する箱物がありますが、先ほど話にあったように箱物にするメリットと、それを維持していく管理費というデメリットがあるので考えなければなりません。それと同時に仮に外町に曳山会館を建てた場合、駐車場を作ってしまうと何のために外町に



	建てたのかとなります。武家屋敷通りから歩いて、歩かせて、食堂、商店会にお金を落とさせるといったことがあります。
吉田副会長	既存の駐車場で降ろして、バスだけ動いて、人は歩かせるということが必要だと思います。内陸線との連動も考えた方がいいと思います。
千葉委員	コース設定の内容にもよりますね。
茂木委員	観光客を対象にして会館を作るとすれば、あえて駐車場はいらないと思います。角館において、歩いて観光に来た方に見てもらおう感じになります。メインとしてお客さんを呼ぶということになれば、駐車場が必要になるとは思いますが。
吉田副会長	採算性の問題もあるので、1回ちゃんと議論して結論を出した方がいいと思います。内陸線の社長にJTBの方がなったので、絶好の機会だと思います。その方も議論に加わっていただき、意見を聞いて結論を出したらいいと思います。
千葉委員	会館に従事しなければならない従業員ということで、人手等がでてくると思います。また美術館等の共通券を発行することにより、市内にお金を落としてもらうことにつながると思います。良い面もあると思います。
吉田副会長	私はやってほしいという事でなく、一度検討する余地があると思うという意見です。
柴田会長	今回は曳山会館の善し悪しでは無く、これを1つの点として色々な意見を聞きながら、角館町の観光にプラスになるかマイナスになるかを検討する必要があるということでした。ただ作ったということではなくて、これを通して町中を考えなければならないと思います。それに関連して内陸線の部分も出てくると思います。そういった部分について提言するという事です。
茂木委員	イベントをやる会場でないですね。常に観光客がちりぱり入るイメージですよ。
吉田副会長	そのイメージは全くまだ出来ていません。
柴田会長	観光関連で、会館をどうするということではなくて、これを通して色々な専門家からの意見を聞きながら検討していくチャンスという事で

ご提言したいと思います。それでは商工関連に移ります。企業誘致はやはり厳しいでしょうか。単純な発想で、企業が来る、地域に所得税等がおりる、若者が集まる、働く人がいるという単純明快な発想です。ただ雪が降るといいうハンデがあります。現に誘致したが、すぐに撤退していき空き家になるということがあると思います。タニタはすごいですね。タニタが仙北町に来て、いつのまにか世界一になっていました。そういった企業誘致の現状はどうでしょうか。

門脇市長

企業誘致を非常に頑張っています。色んな情報をつかんで、脈があるなしに係わらず、その会社に訪問をかけるという事を日常的に行っています。今こういった経済情勢の中で、地方都市の企業誘致は戦国時代の状況です。企業からすると進出するための条件整備として出されるのは、会長が言ったとおり仮に1億投資しても年間800万～900万円くらいのリターンがある計算ですので、長い目で見れば10年15年たてば必ずもとがとれるという思いで向かっています。しかし、秋田県の企業誘致数もあの通りのくらいです。例えばコールセンターに手をあげた羽後町、岩城でも大変な状況になっています。実業を誘致するという事を目指しています。今食品関連が3業者目に入ります。それから自動車整備関連で消防自動車の組み立てをする会社等も好感触です。システムエンジニアを育成するという専門学校的な取り組みをしたいという所とも話をしている状況です。動きは色々あります。ありますが、ほとんどがどれくらいお金を出すのかという話になります。

柴田会長

現状は難しいということですね。

吉田副会長

地元企業が工場を建てる場合に、何らかの補助をこうじてやるということがあれば良いのではないのでしょうか。

黒澤商工課長

商工課で実施している支援制度について前回の審議会でもお話させていただいておりますが、地元企業への支援は新規に事業を始める、事業を拡張するという方々に、金額的には少ないですが事業費が300万円を超えた場合については60万円の補助と、それ以下については30万円の補助となっています。今景気がいくらか上向いていると思いますが、昨年度も数件の申し込みがありました。新規事業で2件、拡張で3件、金額的には270万円の補助です。そういった補助制度を活用させていただいております。今年度についても、今新規で申込みをされている方々がいます。その地元企業の方々への支援に対して金額的なものでもう少し上乘せが出来るような形に持っていくことも検討していかなければならないのかなと思っています。企業立地促進条例に関

	<p>しては投資金額が 2000 万円以上、雇員人数も 5 人増加というハードルが高いものですので、地元企業が活用するというのは難しいかもしれません。設備投資についての支援については、検討していかなければならない時期にきているかもしれないと思います。</p>
吉田副会長	<p>ちなみに 2000 万円というのは何年返済で、利率はどれくらいでしょうか。</p>
黒澤商工課長	<p>事業の投下の固定資産額です。新設の場合は 3000 万円以上、常時雇用 5 人以上というハードルがあります。融資ではなく、補助金です。</p>
吉田副会長	<p>勘違いしていました。補助金だから 2000 万円というハードルがあるんですね。</p>
黒澤商工課長	<p>設備金等を借りた場合は、利子補給という制度があります。</p>
柴田会長	<p>今あるものを充実させていくか、その充実したものの中から次の課題である人口減少の働く場所を提供するという非常に関連したものになります。今聞いてみると、色んな面で厳しいということでした。ハードルをいかに低くしていくかという部分は視点になるのではないのでしょうか。農家も厳しい、企業誘致も厳しいとなれば働く場所が少なくなり、人口が減少し、所得も減少していきます。そこら辺の部分を、もう 1 度示唆しながら、どれだけクリアレベルを低くできるかを検討していただきたいと思います。</p>
門脇市長	<p>新しい企業の方に来ていただくという話は、信頼関係を作ってそして経営計画を作って、銀行融資を整えて、土地を取得して、議会に理解をいただくという事で 3 年くらいかかります。いくら来ていただいて結構ですという方々がいても、3 年後でなければ開業できません。仙北市内で既に様々な事業を行っている企業や、昔こちらに進出してきた企業等で、既に信頼関係が出来ている企業の関連企業というのはたくさんあります。例えば大館のニプロは、ニプロファーマといった関連企業があります。そういった方々は 1 社を核としてグループ企業をどんどん大館に集めてきているという状況があります。そうすると市民の方々もとても良い職場ということもわかります。どんどん早く進みます。平成 25 年度で大館市に 11 社の関連企業が入っています。福祉の事業所を含めて 800 人ほどの雇用が出来ています。やはり地域で頑張っている企業の関連企業に、「良いところだから来い」という声をかけてもらえるような協力関係を作りたいと思っています。黒澤商工課長が言った補助制度は、決して他市町村と比べて低いものではあ</p>

りません。むしろ仙北市は産業振興基本条例を作った事で、支援を手厚くしてはいますが、情報がなかなか発信できないという事があり、切り口としては今ある企業の方々に協力してもらおうという提案をいただければと思います。

千葉委員

私は以前、指定管理の委員をやっていました。市の施設をもっと充実させて、利用価値を高める必要があると思います。助成金をあてにして予算、決算をするようであればやめた方がいいと意見を集約したこともあります。今現在、指定管理になっている施設をもっと充実させることで雇用の場が創出できると思います。そういった価値もあると思います。

門脇市長

とても重要な視点なので1つお話させていただきます。仙北市が今管理をしている公共施設の転用というのはとても重要な考え方です。ただ、1つ問題があって、阪神淡路大震災以降の耐震度の見直し、建築法の見直しがあったことで、仙北市が公共施設として持っている施設を民間企業の方々にお貸しできている事が非常に少ないです。耐震力が確保できるとというのが非常に少ないという状況があります。市が貸し先ということでやるとすればそうなります。当然公共としての責任を果たさなければならぬからです。これが民間同士のやりとりだすれば全く別です。議会に例えば市の公共施設を耐震度を高めていく工事をお願いしたいとしても、財源的に相当厳しい状況があります。企業がここを使いたいという、ある程度の意思がなければ投資ができないという現実があります。

柴田会長

段々厳しくなってきました。今回の商工関連については、新しいものが必要だけれども今ある物を有効利用して雇用を創出してもらいたいという意見も付加したいと思います。いよいよ最後の共通事項に入ります。前の部分と重複する部分もあると思います。

千葉委員

最後の病気にならない体を作る、健康アップという事は大切だと思います。医療にすごいお金を使っていると思います。

柴田会長

これは市ではどこが担当になりますか。地域の方々を啓蒙するなど。結局来て欲しいでなく、どの様に引っぱってくるかという事になると思います。

門脇市長

福祉保健部を中核に市民生活部とも一緒になって、企画提案をする企画政策と一緒にしている状況があります。現場は医療局になります。病院との連携もするとなれば医療局になります。間口が広い話になっ

	ていきます。仮にもし、生涯体育を進めていくとなれば教育委員会というエリアにも入っていきます。1つの過程で対応できる問題ではない広がりがあります。
柴田会長	三位一体で初めてできるものが、市としてトータルして連合を組むようなことを考えていかなければ出来ないということですね。建物としては健康管理センターになるのでしょうか。
門脇市長	健康管理センターや各保健センターが現場です。
柴田会長	もしこれを実行させるとすれば組織作りをして終わるわけではないけれども、市としてどうしていくか構造改革をしなければ出来ないということですね。それも提案として、仙北市、角館ではこうやっているという他市町村に目立つようなシステムを作っていく必要があると思います。組織化、実績化が仙北市から特色をもったものを発信していくということによろしいでしょうか。
千葉委員	官民一体となって一緒になってやるという、連携が必要です。交通事故で亡くならないような色々な取り組みがあると思います。あれを交通事故でなくて、医療に置き換えて住民と一緒に頑張る必要があると思います。官と民が一体化して健康作りを頑張っているというアピールを検討してもらいたい。
柴田会長	人を集めるという事ではなくて、私達はこうやるけどどうだろうかという呼びかけが必要だと思います。仙北市の政策、施策は、ここにあったものを作っていくという事が必要ということによろしいでしょうか。では独自テーマに移ります。

・議事 案件2) 人口減少対策について

事務局 柏谷	事務局からの資料説明。
柴田会長	資料を見ますと、高齢化社会という所に高齢者向けの施設を作り、都会の方をお迎えするのはどうかと、最後に景観が良いので住宅造成に結びつくのではないかという部分は似ていると思います。ただ就業機会ということで、先ほど問題になりました企業誘致の部分や担い手の育成等が関連しています。結論的には若い方々が子育てする、住みやすいといった条件の市を作ってほしいということと同時に、若い人が

帰って来た時の働く場所がほしいということです。色んな条件の中で人々が住める土地環境、住みやすい市にするということがアピール点になると思います。新聞を読んだら、少子化、人口減少の委員会、プロジェクトを立ち上げて話合っているということがありました。仙北市はどういった状況でしょうか。

門脇市長

少子化対策については、3～4年前から職員の方々等々のプロジェクトチームを先手でやっています。それは保育園・幼稚園のあり方研究や、保育園外、施設外の保育の仕方だったり、少子化対策であったり広く議論をしていただき、プロジェクトの研究報告が出ている状況です。それを1つ1つ制度的に作り込んでいる現状です。この前の5月に日本創世会議の答申がかなり衝撃でした。全国で500程の市町村が消滅するというお話でした。秋田県で25市町村ある中でも大潟村を除いてほとんどの市町村は厳しい現状です。今資料にある通り、前の人口減少研究の機関から出ている資料でもわかっていることでしたので仙北市は3年ぐらい前から取り組んでいます。

柴田会長

そういった物は一般市民の方に、それなりの成果は示しているのでしょうか。やっていること自体知りませんでした。発表する段階では無いということでしょうか。

門脇市長

インターネット等で開示しています。会議内容も開示しています。

吉田副会長

角館の場合は待機児童はゼロということでした。待機児童はゼロになってもその後の学童クラブ、親御さんが働いてる場合に子どもをどういう風にみてもらうか。児童クラブですね。希望者のみで若干お金をお支払いするという事になっています。連動して児童クラブをもう少し充実させるような、多くの方々が利用できるような状態にしたらどうでしょうか。とにかく小学校1年生は早い時間に帰って来ます。今はわかりませんが、帰って来ても誰も見てくれる人がいないというケースが出てきます。そういった時に児童クラブとの連携も考えてもらいたい。既に議論しているかもしれませんが、投げかけてもらいたい気持ちがあります。

門脇市長

保育園、幼稚園と放課後児童クラブの連動に関しての記述は無かったと思います。そういった視点での協議はなかったと思います。大変重要な視点だと思います。待機児童についてですが、確かに待機児童はゼロです。問題は待機児童ではなくて、保留児童です。例えば子どもでお兄さんと妹がいて、お兄さんは角館の保育園に入れることができたが、妹はいっぱいと言われて中川の保育園に入れることになったと

いうケースです。そういった事で今は待機児童がゼロという状況です。本当であれば、兄弟は同じ保育園で生活していくのが理想的と思っています。数では見えない部分でご不便をかけている方々がいます。それから、放課後児童クラブについても全エリアで放課後児童クラブが設立になっています。ただその児童クラブとの連携をどうとっているかという、私もなるほどと思って聞きました。これは良い視点だと思います。

柴田会長

今の吉田副会長の発言は、環境整備の観点にはまるということですね。よろしくをお願いします。他にご意見等ありませんでしょうか。

千葉委員

都会に出てしまって若い人達の数が少ないです。その原因は働く場所がないことや、働く場所があっても給料が安いということがあると思います。そういった状況では結婚が出来るような状況でないと思います。女性の方と集まる機会が少ないと思います。レジャーができる施設もないし、楽しいことが無いのではないだろうか。大人もそうですが、若者は特にありません。やはり恋愛下手というか、出会いの場が少ないと思います。それが晩婚化になっていき、そしてフリーターもでてきていると思います。出会いの場を作り、提案にもある昔は仲人がいて色々な人を紹介してくれたように、そういう人達にも助成するというのもあると思います。出会いの場を育ててくれるような施設、人が大切だと思います。

柴田会長

出会いの支援の部分ですね。充実させるべきという意見でした。

千葉委員

それから角館田沢湖の観光のおかげで成り立っている商店があると思います。そこで出来るだけ地元の方を雇用していただくと、私は以前、観光税をとったらどうだろうかと思いました。観光で成り立っている部分もある市だと思いますので。急に話してしまってすみません。なぜかという、税金で観光キャンペーンを行っていますが、それは一部分にしか落ちていません。そうではなくて、極端に言うと観光税を吸い上げると、それを吸い上げない方法としては地元の若者を雇用をする場合は税の対象外となるというくらいの意気込みが必要だと思います。就職の部分で意見がでましたが、それとイコールだと思います。若い人が働ける場所を作り、それと出会いの場に私達が手をさしのべる必要があると思います。

吉田副会長

地元の若い方はどういう出会いの場を求めて、地元で働きたい方はどういう職場を求めているのか、行政の方でアンケートなどで話を聞いてみるのも1つの方法だと思います。女性の若い方々はこういう風

な考え方をもっていて、私達とかなりの差があるなどがわかると思います。そういったものを設けた方がいいと思います。

柴田会長

今の声を聞くということは、出会いの創出の支援に当てはまりますし、千葉委員の税金関係や雇用については、就業機会の減少に当てはまりますが、全てに関連していくと思います。

茂木委員

確かに大きな原因であると思いますが、もう1つの考えとして近所の方を見ても、若い人がいますが結婚する意欲や気持ちがないという人も結構いると思います。出会いの場を楽しむということよりも、過程を作るという基本的な部分がかけているのかもしれませんが、30年～40年前に社会教育的なことで話を聞いたことが思い出されますが、子どもが親をみるという家庭教育をするのが、福祉の原点という話がありました。それを基本として教育したのは欧州です。子どもが親のために犠牲になることも仕方がないという教育を取り入れていたということです。それが基本となって芽生えてくるのは30年～40年後になるということです。日本の場合は権利のみを取り入れている状況です。家庭をもたなければならないという基本が薄れてきていると思います。家にいる方はほとんどが就職しています。自分でとった給料は自分で、親からご飯をたべさせてもらおうと。結婚はあまり考えていないと。結婚を考えなければ老後の事は全然考えていなくて、今が楽しければ良いという考えの人が多いのではないかなと思います。そうすればここで対策するというのではなくて、基本的な問題を解決していかなければならないと思います。

千葉委員

お互いが働いていてもぎりぎりの生活でやっていれば、子供達に愛情を与えられない家庭もあると思います。お金がないから仲が悪いという訳ではありません。子供達は自分の親達の仲がよいところをみたいが、実際は苦しいという現状を見ている所もあるため、家庭を持つという意欲がわからないということもあるかもしれません。気持ちでは、角館の子供達はみんな良い子どもで良い考えを持っていると思います。昔からの生涯教育というのが根本に流れていると思います。しかしそれを生かすきれない家庭環境かもしれません。平均賃金はかなり落ちています。市長が10%向上に取り組んでいるのもわかります。所得があがっている仙北市であれば、こんなテーマは出てくる訳がありません。結婚したくないという気持ちもわかりますが、それに手をさしのべるような方法が無いという現状だと思います。

茂木委員

結婚したくないということは逆に、私の娘は子どもが3人いるのですが、3人もいて子育てについて考えているのかと聞いてみたところ、



子どもをもつことにそんなことは考えていないと言われました。

柴田会長

今回の人口減少対策は全てに関連していると思われます。他に何かありますでしょうか。昔の親はすごかったですね。背中で面倒するもんだと教えているようでした。そうなればすり込まれてくるんですね。私の親もそうでした。何かしてもありがたいとは言いませんでした。当たり前ということでした。これが羨だったんだと思いました。今の父さん達は心が良いというか、優しいですよ。昔の人の育て方は強いと思います。

結局これが次の機会にまとめられます。これでいいのかという原案を作って発表となりますが、元となる意見は今日が最後になります。

黒澤委員

地元の男女の問題もありますが、企業でなくても人を外から呼ぶということもありますよね。そういう場もあります。そういった部分も考える必要があると思います。よくテレビのニュースで、農家に嫁に来ないかというのがありました。あそこまでやらなくても良いとは思いますが、秋田角館に嫁に来ないかという部分があればいいと思います。

柴田会長

ある旅館の板前さんが市外から来ました。8ヶ月の子どもや4歳の子どものもいます。私の町内に子どもがきたのが20年ぶりです。雇用した人を地元に住んでもらい、そこから通ってもらっています。旅館に泊めるのではなく、町内に住んでもらうということです。町内会費も増えたし、人口も増えたし助かっています。そういった方法もあると思います。内で増えなければ、外から呼んでくるという部分もあると思います。田沢湖には湖畔や高原に移住してきた人がいますよね。

倉橋副市長

空き家の活用ということで、何年か前から行っています。売却なり賃貸なりで人が入ってきています。

柴田会長

どのようなシステムで入ってきているのでしょうか。

平岡企画政策課長

空き家バンクという制度もあります。空き家を募って紹介しています。今回は固定資産税の納税通知書の中に、空き家バンクを登録してくださいという事で、主に県外在住の仙北市内に家がある方々をターゲットに送りました。また定住促進奨励金ということで、市外から新たに転入された方々が新築あるいは新しい家を購入された場合に、固定資産税相当額を3年間奨励金として交付するという制度を行っています。実績数はあまり多くありませんが、そういった支援策を行っています。もっとPRに力を入れたいと思っています。

柴田会長 空き家を解体すれば補助金をいただけるという事は知りましたが、そういった制度もあるんですね。他にありませんか。

千葉委員 高齢者のお祝い金というのはやっていますか。また子ども第3子から市からいくらか助成はできますか。

門脇市長 今議論している最中です。日本創世会議でも今後は、例えば子どもを産みたいという人達に、その産みたいという気持ちを阻害する要因を排除するために経費をかけるという話がありました。また、ここで言う仙台になってしまいますが、地方の中心都市に行かなくても良いように、地方で拠点都市を整備していきたいという考え方もありました。とても経費はかかります。その財源をどこに求めるかということ議論した時に、日本創世会議の中では非常にやんわりした言い方でしたが、今まで高齢者対策をしてきた財源の振替を考えなければならぬと言っていました。そういった現状です。

柴田会長 1つの方向として新しい物に対する手厚い支援を考えなければならなくなっているという現状ですね。

千葉委員 そのこの家の家族だけが喜ぶだけでなく、周りの家の人達も頑張れという風習が出てきたら良いと思います。  
保育園、幼稚園と老人福祉エリアが離れています。おじいちゃんおばあちゃんが一番喜ぶのは、子供達のにぎやかな声や子供達との触れあいだと思うし、認知症防止にもなると思います。そういう場を作ることもあると思います。また家に帰ってもおじいちゃん、おばあちゃんがいらない家庭もたくさんいると思います。箱物を作るとなれば、そういった将来的な部分も考えていってほしいです。

柴田会長 東京の方では1つの建物に、幼稚園なり小学校があって、老人ホームがあってマンションがあるというものもありました。そのエリアの中にそういった物が備わってくる必要があると思いました。単品ではなくて複合的な施設を考えていく必要があると思いました。

倉橋副会長 たまたま白岩に寿楽荘が出来ましたが、その側に保育園があります。効果等は注目したいと思います。

茂木委員 計画性をもった考えの中で進めていくという事が必要だと思います。

柴田会長 それでは終了時間になりましたので、これで議論は終了したいと思います。

ます。

事務局 柏谷

今回はお昼に開催させていただきましたが、仕事をしている方からは夕方の 16 時や 17 時からの方が参加しやすいという声もいただきましたので、次回はそういった時間に開催したいと思います。

柴田会長

それではこれで会を閉じたいと思います。お疲れさまでした。

( 1 5 : 3 0 終了)